

ひだまり

令和5年10月27日(金)
足立区立中川東小学校
道徳通信 第6号
校長 豊田 純子
道徳教育推進教師 前田 康介

発達段階で見る『親切, 思いやり』

本校では、特に育てたい道徳性として、『節度, 節制』(節度を守り、節制に心がけること)『親切, 思いやり』『生命の尊さ』(生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること)に重点を置き、道徳授業を実践しています。

そこで、今回は低学年、中学年、高学年の発達段階において、『親切, 思いやり』の道徳性をどのように捉え、授業のねらいとしているのか…簡単に解説していきます。

《『親切, 思いやり』に関する低・中・高学年の捉え》

低学年 1・2年生	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること
中学年 3・4年生	相手のことを思いやり、進んで親切にすること
高学年 5・6年生	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること

低学年の子供たちは、関わる人の幅が少しずつ増え、様々な人々の関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付けるようになってきます。そこで、「相手の気持ちを考えることは大切」や「相手が喜ぶと自分も嬉しいから優しくしよう」などの心情や意欲を育てる指導を行っています。

中学年の子供たちは、友達同士の交流が活発になり、行動範囲が広がります。相手の気持ちを察することができるようになる一方で、相手の感じ方や考え方が自分と同様であると思いがちになることもあります。そこで、「相手の置かれている状況や立場を考えて行動すること」「自分のこととして相手のことを考え、親切な行為を進んで行うこと」などの態度を育てる指導を行っています。

高学年の子供たちは、自他を客観的に捉えることができるようになります。そのため、相手のことを自分に置き換えて想像する力も高まってきます。そこで、「相手のためになる行動を考えて、親切な行為を進んで行うこと」「人間関係の深さの違いや意見の相違を理解しようとする事」などの態度や心情、判断力を育てる指導を行っています。

今後も、子供たちの発達段階に応じた適切な指導を、道徳授業で実践していきます。

◇5年生の道徳の時間◇



<令和5年10月17日 片桐学級>

教材名: 『言葉のおくりもの』

主題名: 異性への理解の深まり (授業のテーマを「主題名」と表します)

すみ子、一郎、たかしは同じクラスの友達です。たかしは、すみ子と一郎の関係をからかいます。すみ子は気にも留めませんが、一郎は嫌で自分を助けようとしてくれたすみ子につらく当たってしまいました。

そんな中で迎えた町内の運動会の日、たかしがリレーで転んでしまうと、すみ子はさっと近付いて励まします。さらに、一郎の誕生日にはこれまでの感謝や男女一緒に仲良くしたいという自分の思いを言葉にして贈った、という内容です。

授業では、友情を深めようとしているのは誰か、三人の関係が変化したのはなぜか、話し合いました。そして、からかわれるのが嫌で不安な一郎の気持ちと、一方で誰にでも同じように接し友達を想うすみ子の優しさに気づき、男女関係なく接することについて考えを深めました。

さらに友情を築くために大切なこととして、子供たちからは「男子とも女子とも仲良くする」、「だれとでも話す」、「たくさん話す」などの意見が出されました。お互いを尊重しながら関係を築いていこうとする気持ちを高めた子供たち。これからの学校生活での行動にその気持ちが表れ、さらに絆が深まっていくことを期待します。